

# 2級建築士

## 1. 講座の概要

2級建築士は、大きく「学科」と「製図」があり、それぞれ「無料講座」と「会員講座」がある。

過去問は、センターとの許諾条件から会員講座のみでの公開である。2級建築士の講座は、2017年1月にセンターから過去問の使用許諾を頂き、毎週月曜日に完成した資料を適宜アップ中である(状況は「HOME無料講座」の一番下「お知らせ」参照)。

1級建築士の講座は、過去問20年の分析、解説等をしている。2級建築士の講座は、過去問10年である(下表参照)。これは、スピードを持って講座をアップする一面もあるが、2級建築士は比較的基本的な問題があり、難易度も1級建築士に比較すると高くない。

平成28年度の1級建築士と2級建築士の合格率は下記の通りである。

- ・1級建築士(H28合格率):学科=16.1%、製図=42.4%・・・ストレート合格なら **6.8%** と弁護士並みの難易度
  - ・2級建築士(H28合格率):学科=42.3%、製図=53.1%・・・ストレート合格でも **22.5%** と難易度が低い
- 過去数年の2級建築士の合格率は、学科30~40%、製図50~55%、最終20~25%である。

2級建築士を受験される方は、将来を見据えることと、難易度の高い問題が解けるようになるので、少しでも1級建築士の講座を学習することは有益である。2級建築士の試験問題は、基本的な問題が多いが、近年、少しずつ1級建築士の問題に近い「細かい部分の問い」も多く出題されるようになってきている。学習時間の確保次第であるが、2級建築士の問題の中の難易度の高い問題を解答できるようになるには、1級建築士の問題を解いた方が効果が高い。ただし、2級建築士は、1級建築士の問題を解かなくても十分合格できる。2級建築士の合格率なら、過去問**10年**の学習で合格できると判断している。

なお、2017年は講座初年度となることから、2017年製図試験の予測課題については、「1点予測課題」とし、「80%以上ズバリの中する項目別の予測課題の解説」を行う予定である(2017年8月頃)。この製図の講座概要は、2級建築士の内容はないが、1級建築士は「検証」も含め掲載しているの、そちらを参考にして頂きたい。当研究会は、1級も2級も製図試験について、他社通学しなくても合格できるような資料の提供を目指している。

2級建築士(学科無料講座)
1章 学科試験の現状把握
2章 4科目の項目別問題別一覧表(H19~H28)
3章 過去問10年の出題法文一覧表(H19~H28) (適宜追加)

2級建築士(製図無料講座)
1章 製図試験の現状把握

2級建築士(学科会員講座)
1章 4科目の項目別問題別一覧表(H19~H28)
2章 過去問10年の出題法文一覧表(H19~H28) (適宜追加)
3章 4科目全問題のポイント一覧表(H19~H28) (適宜追加)
4章 II法規の過去問10年の出題法文一覧表(H19~H28) (適宜追加)
5章 4科目の過去問10年の出題問題一覧表(H19~H28) (適宜追加)
6章 年度別の問題と解説(H24~H28) (適宜追加)

2級建築士(製図会員講座)
1章 センター出題課題(H24~H28)
2章 センター標準解答図(H24~H28)
3章 センター出題課題の項目別分析(H24~H28) (適宜追加)

2級建築士を受験する方を図1に示す(平成28年度を受験申込フロー)。  
 大学、短大、高等専門学校で指定科目を修めた方は、実務経験0年で受験できる。高等学校で指定科目を修めた方は、実務経験3年で受験でき、学歴がない方でも実務経験7年で受験できる。  
 つまり、  
 ・7年経験⇒2級建築士  
 ・4年経験⇒1級建築士  
 ・5年経験⇒設備・構造設計1級建築士  
 で全ての建築士の資格が取れる。  
 志を持たれた方は、当HPを活用して、2級建築士取得後に1級建築士の取得を目指しませんか。当HP活用なら、2級建築士受験～4年後の1級建築士受験までの5年計画で、初年度2万円～4年間1万円/年の合計6万円とリーズナブルである。

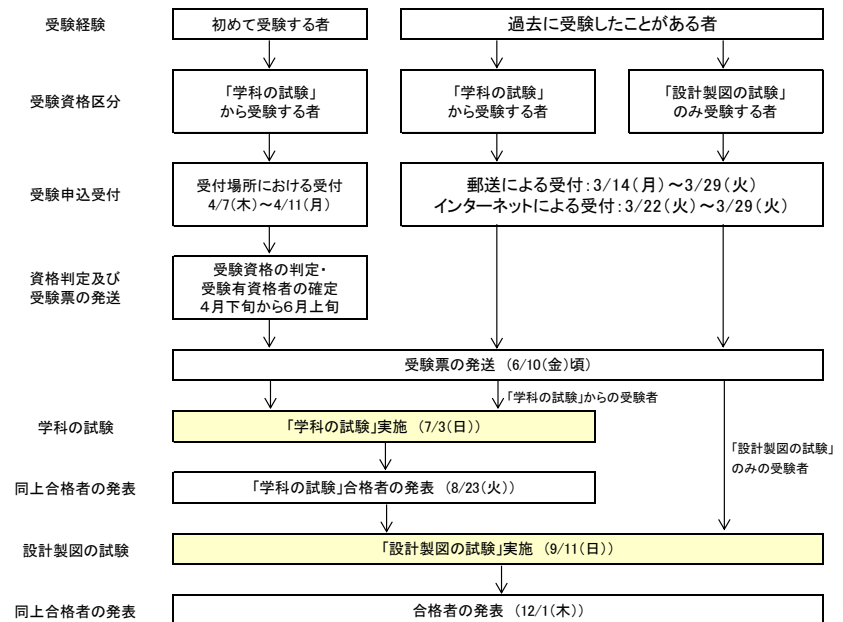


図1 平成28年度の2級建築士の資格取得までのフロー